

1 研究の形（位置づけ ⇒まずは、形から共通行動・実践 何を形として示すか）

下記の授業構想づくりの表は、これまでの学校研究で積み上げてきた10のアクションである。学校研究をより具体的に進めるために、重点項目を決め、全ての教科で確実に実施するには、教師も生徒も意識化させる手立て（共通アイテム）が必要である。実践として結びつける形として表れてくるものである。

2 求める子供の学び姿「学び合い」（学力向上プランより）

- 自ら学び、共に学び、豊かに学ぶ生徒（見方・考え方を働かせて考えることができる。）
- 教科の学習用語を用いたり、既習とつなげたりして考えや理由を説明することができる。

令和3年度 主体的、対話的で深い学び 生徒の「学び」をつなぐ『授業デザイン』（10のアクション）

各教科		特別の教科 道徳	
身に付けさせたい資質・能力を明確にする① 実生活や実社会とのかかわりを意識した題材や活動を設定する② 本時や単元のゴールイメージ(目標、ねらい、めあて)を示す③		単元の構成	生徒の実態からの教材分析を通して、ねらいの達成に効果的な部分や活用方法を明確にしておく 中心テーマ、中心発問から授業づくりを発想する 育てたい「道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲と態度」は何かを明確にする
■学習の動機づけ → 主体的な学びにするための動機付けの工夫 映像・写真等 (課題提示) 学習課題をつかむ ○知的好奇心・疑問を感じる・コミュニケーション意欲を高める なぜ～のだろう? どのように～だろう? どう表現しようか? ○結果の予想・課題解決の方法を考える(見通しを持って、粘り強く学習に向かう)	主体的 課題提示	見通し	主体的 ■学習の動機づけ(「めあて」を確認し、提示(板書)する。) ○問題意識をもって(生徒自身から問いを生み出させる) ここから迫る ○自分との関わりで捉え、考えさせる(道徳的価値の理解を身に) 「自分だったらどうしますか」「あなただったらどう考えますか」 ・価値からの導入 ~優しくされた時、どんな気持ちになりますか? ・教材からの導入 ~写真、動画などを使い、どんな場面ですか?
■学習課題を追求する (自力解決) 考えを形成する場の設定④ → 位置付け 掲示・ノート ○既習事項と関連付けて考える(比較・分類・関連付け・理由付け) ○各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるようにする⑥ → 板書上に位置付ける⇒ノートに記載 (話し合い活動) 対話の場や対象を明らかにし、活動の設定⑤ ■思考を表現に置き換え、説明する → 使わせたい用語は板書上で黄色で書く ○学習用語を使い、根拠に基づいた論理的な説明をする⑦ ・自分の考えを言葉・身体表現・絵・音・絵・数式等に表す ・子供同士の対話・複数の資料から情報を得ている ■自分と他者の意見や考え方を比較する → ノート作り⑧の記載徹底 自分の考えとの共通点や相違点に気づく ○問い返し・発言をくつなぐ(深い思考を促す)⑧ → 指導案上に「深い思考」「つなぐ」発問の記載 ・子どもが何気なく活動していることを意識化させる ■協働して課題解決する ○納得解や最適解を見出している ⇔ 見方・考え方 さらに深い学びへ ・自分の生活や経験したことと結び付けている ○得られた結果について再考している (まとめ) ■知識・技能の概念化、自分の考えを形成する ○自分や得られた考えをまとめる・表現する	対話	探究	読む 基本発問 教材を読む・範読を聴く・視聴する(挿絵・キーワードの提示) 中心場面の前後に価値の把握をする 「場面発問」 登場人物の心情、判断、理由 ~のとき○○の気持ちはどんなだろう ~のところで○○はどう思っただろう 「テーマ発問」 主題への追及 ~にはどんな意味があるのか ○○が大切にしていることは何だろう ■ねらいとする価値を追求する → 板書上でグルーピング ICT活用全員の考えの表示 中心発問は、①誰の視点で ②どの場面で ③何を問うのか? (思いや気持ち、考え、気づき、行動の根拠など) ■広い視野から多面的・多角的に考える(話し合う) 道徳的価値そのもの 特性等の観点 異なる立場から考える 人、時間や空間を変えて 【傾聴三原則】 ・相づち ・うなづき ・賞賛 補助発問 交流 ○発問の立ち位置の工夫(見る視点を変える・つなぐ・揺さぶる) ○心のあり様・心の多様性を見る化 → 心情% ICT活用で示す 見る視点を変える発問を提示(指導案に位置付け) 深め合い ■自己を見つめる(自分が自分に自分を問う) 他者とのかかわりで、他者の考えを知る。認め合う・磨き合う。 道徳的価値を自分自身の関わりの中で広げ、深めていく 絶対解(わかり切っていること)から「納得解」へ 4理解の一つを考える場の設定 → 人間理解 価値理解 他者理解 自己理解 道徳科における 見方・考え方
■学びを振り返る 学びと変容(考え・できるようになったこと)の自覚⑨ ○学びを価値づけ、次の学習や実生活との関連への活用意欲につなげる⑩ 単元のはじめに「狙い」と「求めるゴール」、単元の終わりに「振り返り(学んだこと)ノートに記載	振り返り	振り返り 終末	振り返り ■自らを振り返り、自己の生き方について考える(道徳ノート記入) 気づいたこと ⇒ これまでの自分・これからの自分 ⇒ 道徳的实践意欲へ 特別活動との連携した指導

(①~⑩はアクション項目)

①場面(人の気持ち)を問う⇒②人物(主人公の生き方)を問う⇒③教材を問う⇒④価値(主題)を問う